

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

信太高校は、生徒一人ひとりが自分を認め、笑顔で学校生活を過ごせる教育をとおして、保護者や地域に信頼され、生徒一人ひとりの進路実現できる学校をめざします。

- キャリア教育が充実している学校 ○ 基礎学力が向上できる学校 ○ 自尊感情を育む学校
○ 社会人としてのルール・マナーを育む学校 ○ 部活動がさかんな学校

キャッチフレーズ：“チャレンジSHINODA”

2 中期的目標

1 3年間を見通したキャリア教育の推進

(1) キャリア教育の推進

ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。

イ 1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に行い、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。

※ 卒業時の進路決定者を平成28年度に97%にする。(平成26年度85% 12月末現在 25年度95% 24年度94%)

※ 生徒・保護者の進路指導満足度を平成28年度にともに80%以上にする。(平成26年度 生徒83% 保護者78%)

※ 就職内定率は100%の達成・継続をめざす。

(2) 基礎学力の向上

ア 教員の授業力を向上する。

・教員相互の授業参観や研究授業を活発化し、授業アンケート等を活用して、授業内容・指導方法を改善する。

・誰にでもわかりやすい授業－視覚化、構造化、生徒参加－に向けた工夫を進める。

※ 学校教育自己診断における生徒の授業理解度を平成28年度70%以上にする。(平成26年度61% 25年度62% 24年度58%)

イ 授業規律の確立を図るとともに、自学自習習慣を定着させる。

・各学年で宿題・課題を定期的に課す等、学習習慣の定着を図る。

※ 日常の家庭学習を行う生徒を在籍者の平成27年度40%以上にする。(平成26年度35% 25年度32% 24年度27%)

ウ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。

※ スポーツ科学専門コース生徒のコース選択満足度を平成28年度に90%以上にする。

エ 漢字検定やパソコン検定等を実施し、目標に対する達成感を体験し、さらなる上位級への挑戦を図る。

※ 漢字検定合格率50%以上を維持する。(平成26年度63% 25年度58% 24年度55%)

オ 補習・講習等の取り組みの充実を図り、希望進路の実現を支援する。

(3) 社会人として必要なルール・マナーの育成（基本的な生活習慣の改善・定着

ア 全教職員で、あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。

イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。

※ 年間延べ遅刻者数を年間10%の減をめざす。(平成26年度4,442回 25年度6,173回 24年度6,899回)

ウ 生徒の相談機能の充実、生徒情報の共有化、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。

(4) 部活動の充実（知・徳・体のバランスのとれた生徒育成）

ア 運動部活動及び文化部活動の一層の充実を図るとともに、部活動加入率50%以上をめざす整備。

イ 地元中学生を招いた部活動交流会、中学生対象の講習会や中学校教員対象の指導者講習会を実施する等、地域の拠点校となる。

2 開かれた学校づくりの推進

(1) 本校の教育活動について、積極的に情報を発信する。

ア 学校説明会・体験入学などの充実を図るとともに、中学校や塾などへの訪問活動を推進する。

イ 学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内リーフレット、メールマガジン等の更新・活用により、積極的に情報を発信する。

(2) 学校や企業等との連携に加え、地域との連携を積極的に行う。

ア 連携協定校（大学）と協働して、学校の活性化を図る。

イ 部活動や生徒会活動をとおして、地域の活動等に積極的に参加し、小・中学校や福祉施設など各機関・団体との交流・連携を推進する。

3 共生推進教室の充実

(1) 平成26年度から設置された「共生推進教室」の充実を図り、「ともに学び ともに育つ」教育を推進する。

ア 共生推進教室の生徒に適切な指導や必要な支援をおこない、社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するとともに、入学生徒の卒業後の就労率100%をめざす。

イ ノーマライゼーションの理念のもと、障がいのあるなしにかかわらず、すべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育をすすめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校への信頼】</p> <p>○「信太高校に入ってよかったと思う」生徒71.5%、「入学させてよかったと思う」保護者87.7%で信太高校に入学したことを肯定的にとらえている。ただし、「学校生活は充実していると思う」生徒75.8%は、昨年度81%より減少しており、「他校にない特色ある教育活動がある」保護者64.5%という数字をふまえて、授業や活動の内容の改革を打ち出す必要がある。</p> <p>○「いじめや暴力のない学校づくりに努力している」生徒64.3%、保護者も73.7%である。ただし教職員は87.5%がそう感じており、見えない部分の差を埋めていくきめ細かい取り組みが必要である。</p>	<p>第1回(6/27)</p> <p>○H27年度学校経営計画について</p> <p>・今回新たに入れられた「誰にでもわかりやすい授業」の推進はとても重要であり、ユニバーサルデザインの授業を推進すべきである。黒板を写すのが苦手な子どもの手元に同内容の資料を置いて書かせるなどの支援もある。さらに大学でも、動かしやすい机を配置したアクティブラーニングが進んでいる。また義務教育でもまとめる力の育成をしている。</p> <p>第2回(10/22)</p> <p>○配慮の必要な生徒の進路保障について</p> <p>・入学時から学校生活支援カードなどで生徒の状況を把握し、保護者との丁寧な連携が</p>

<p>【学力保障と授業】</p> <p>○「検定などの資格取得」に熱心だと思ふ生徒 73.3%で、「テスト以外のさまざまな評価を取り入れて成績を出している」と感じている生徒 71.5%、保護者 80.2%と高く、放課後の補習など学力保障の取組みを評価されている。ただし、授業について教職員「わかりやすく授業や教材の工夫ができてい」89.6%に対して、生徒「授業がわかりやすく理解できてい」59.5%という差も見られる。分かりやすい授業について一層の推進が求められる。</p> <p>○生徒「進路実現に向けた指導が丁寧である」78.5%、保護者もほぼ同数がそのように感じている。教職員の意識も 95.1%が適切であると考えており、教職員の意識も十分高いと言える。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○生徒指導に関しても 85%以上の生徒、保護者が「生徒指導上のルールを守っている」ことを実感しているため、遅刻指導や頭髪指導が意義のあるものとなっていると言える。</p> <p>○「部活動が盛んで、熱心に取り組まれている」生徒 80.5%、保護者 83.1% 教職員 100%と、部活動については約半数の生徒が熱心に取り組む高い成果をあげている。一層の加入率増加に向けた取組みを検討したい。</p> <p>【共に生きる教育】</p> <p>○「ともに学ぶ教育が進んでいる」生徒 44.1%、保護者 58.6%、教職員 89.1%。生徒が感じているのが、教職員の数値の半分であり、単に授業を一緒に受けているからもう一歩進んで「ともに学ぶ」教育を考えていきたい。</p>	<p>あつて本人の進路の見通しが立てられる。</p> <p>○スクールソーシャルワーカー（SSW）の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年からキャリア教育支援体制整備事業が始まり、拠点校 2 校、ブロック拠点校 4 校に SSW が配置され、ソーシャルワークの観点からケース対応や校内支援体制の充実が図られている。子どもの貧困や虐待が社会の課題となる今ますます重要である。 <p>第 3 回 (1/30)</p> <p>○自己診断アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすく理解できてい」の差については、授業で使うプリント類が多いことや、教員側が教材を作ってそれで満足してしまうことがある。例えば、大学でも、講義で学んだ内容は、ディスカッションなどを通じてその言葉の意味が本当に理解できる。あるいは何が分らなかったかが分かる。 ・「ともに学ぶ教育が進んでいる」の差については、小、中と障がいのある友達と一緒にいることが当たり前になっていたら、改めて「ともに学ぶ」ことの内容が分かりづらかったのではないかと。また、一つひとつの行事で誰もが参加しやすい、楽しめるための工夫も必要である。 <p>○信太高校が地域から信頼されるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを見て、印象が決まることが多い。生徒「自分が学びたいものがある」保護者「ここでは安心して預けられる」という意識を持ってもらえるように。 ・地域のイベントへの参加や、中学校の部活動との合同練習などを増やしていく。 ・共生推進をうたっているので「この学校は安心して学べるよ」というメッセージを出すこともいいと思う。
--	---

府立信太高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 3年間を見通したキャリア教育の推進	(1) キャリア教育の推進 ア 系統的・組織的な進路指導体制の定着 イ 体験学習の推進・進路情報の発信	ア・生徒の希望進路の実現を支援するため、進路指導部、各学年及び学校活性化委員会が連携して進路指導を推進する。 ・進路説明会、進路講演会、大学見学会、奨学金講演会の開催、オープンキャンパスへの参加促進などとおして進路意識の向上を図る。 ・生徒が最新の進路情報を閲覧できるようキャリア支援ルームの充実を図り、各自の能力に応じたマナーや面接指導等の講習や面接練習を行う環境を整える。 イ・ひきつづき、大学や専門学校、病院、保育所等と連携した体験学習の充実を図る。 ・進路通信やホームページなども活用して、進路情報の積極的な発信に努める。	ア・卒業時の進路決定率 96%以上 (H26・96%) ・就職内定率 100% (H26・100%) ・生徒、保護者の進路指導満足度 (学校教育自己診断) 80%以上 (H26:生徒 83% 保護者78%) イ・体験学習参加満足度 (学校教育自己診断) 85%以上 (H26・91%)	ア・生徒の進路実現を支援する進路指導を学校全体で取り組んだ。就職支援コーディネーター、泉大津ハローワーク (ジョブサポーター) との連携により、きめ細かい就職指導も展開できた。 ・進路決定率 91% (○) ・就職内定率 100% (◎) ・生徒の進路指導充実度 (肯定的評価) 79% (○) 保護者の進路指導満足度 75% (△) ・配慮を要する生徒の就労の実現 (○) イ・保育実習、看護師講話、大学、専門学校体験等体験学習を実施した。保育体験 17名、大学体験 21名の参加である。生徒「体験学習が多い」42%。参加満足度は聞けていない。(△)
	(2) 基礎学力の向上 ア 教員の授業力の向上 イ 授業規律の確立 ウ スポーツ科学専門コースの充実 エ 各種検定の実施 オ 補習・講習の実施	ア・「誰にでもわかりやすい授業ー視覚化、構造化、生徒参加ー」をテーマに授業力向上を進める。 ・年間2回の授業公開週間を実施する。 ・全教員による年2回以上の授業参観を行う。 ・授業参観及び授業評価アンケート (年2回) を活用し、授業改善を推進する。 ・経験年数の浅い教員に対して、経験豊かな教員による個別研修・研究授業及び他校教員との合同研修を実施する。 ・授業における教員のICT活用を推進する。 イ・メロディチャイムでの着席、机上整理の指導を継続する。 ・各教科からの宿題など、家庭(自主)学習の時間の増加を図り、自学自習の習慣を定着させる。 ウ・スポーツ科学専門コースの一層の充実を図る。 ・外部講師の積極的活用を図る。 エ・漢字検定やパソコン検定等を実施し、資格を取得させる。 オ・希望進路の実現を支援するため、進学者(看護学校含む)対象・就職者対象の講習会を実施。	ア・全教員授業参観年2回以上 (H26・86%) ・授業アンケート「授業満足度」 85%以上維持 (H26 88%・88%) ・学校教育自己診断の「授業理解度」 65%以上 (H26・61%) ・研究授業年10回以上実施 (H26・9回) ・授業時ICT活用者率 65%以上 (H26・55%) イ・学校教育自己診断の「家庭(自主)学習する生徒」 35%以上 (H26・34%) ウ・スポーツ科学専門コース 選択者満足度 85%以上 エ・漢字検定合格率 50%以上を維持 (H26・63%)	ア・校内研修「発達障がいとユニバーサルデザイン」実施、教員が授業でユニバーサルデザインを普段から意識 47%、何回か試みた 39% (○) ・授業公開週間を中心に、保護者以外に近隣の高校・中学等から、のべ19人が参加した。(△) ・教員の授業参観年間2回以上 73% 全員実施をめざしたができていない。(×) ・授業アンケートの「満足度」(教員に関する肯定的評価 7月 82%、11月実施分未集計 (△) ・研究授業は10回実施 (○) イ・「家庭(自主)学習する生徒」は未調査である。学習習慣の定着・向上にひきつづき努める。 ウ・スポーツ科学専門コースAED救急法の講習受講 28人 (△) エ・漢字検定合格率 58% (○)
	(3) 社会人として必要なルール・マナーの育成 ア 基本的生活習慣の改善・定着 イ 遅刻指導の継続 ウ 生徒支援体制の充実	ア・「学力向上と学校生活の充実はよき生活習慣から」ひきつづき学校全体で生徒指導に取組み、課題の共通認識を図る。 ・校外での登校指導や交通 (自転車・歩行者) マナーの向上、あいさつ、チャイム着席などの指導を継続する。 イ・家庭とも連携して、遅刻指導を継続実施する。 ウ・学年、分掌、教育支援委員会、人権教育推進委員会、共生委員会など校内の組織間及び外部機関や中学校などとの連携を強化し、高校生活支援カードなども活用して生徒の状況・情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。	ア・学校教育自己診断の「学校生活の充実度」 80%以上を維持 (H26・81%) ・全教員による登校時の一斉生徒指導 毎月実施 イ・遅刻者数 前年度比 10%減 (H26・4442回) ウ・教育支援委員会の毎月開催 (H26・10回開催)	ア・校外での登校指導など、生徒の基本的生活習慣の改善・定着に学校全体で取り組んだ。 ・「学校生活の充実度」 76% (△) 次年度は80%以上を維持する。 イ・家庭とも連携し、継続的に遅刻指導を実施した。12月現在遅刻者数前年比 9%減少 (○) 12月までH27・4299回 (H26・4702回) ウ・教育支援委員会で配慮を要する生徒の情報共有 (1月段階で15回開催) スクールカウンセラーの活用ではケース会議延べ18回、面談述べ24回実施。さらに今年初めてスクールソーシャルワーカーの派遣 (随時2回) など校外での連携で生徒支援を推進した。(◎)
	(4) 部活動の充実 ア 部活動の充実と部活動加入の促進 イ 部活動をととの地域交流・地域貢献	ア・各部を支援するため、活動環境の整備に努める。 ・年度当初の新生生の部活動加入広報を強化する ・活動状況・試合結果等をホームページに掲載するなど、情報発信にも努める。 イ・地元中学生等との部活動交流を一層推進し、地域リーダーの育成を図り、地域スポーツの拠点をめざす。 ・部活動生徒による挨拶・地域清掃などの活動を一層推進する。	ア・各部の活動実績 ・部活動加入率 50%以上 (H26: 44%) ・女子の部活動加入率 40%以上を維持 (H26: 42%) イ・中学校等との部活動の交流 前年度比増 (H26・10回)	ア・運動部及び文化部の各部とも年間をととして充実した活動を展開している。(◎) 陸上競技部 八種競技インターハイ 8位入賞 (教育長表敬訪問) 硬式野球部公式戦大阪ベスト 32 男子バスケット部公立高校大会 2位 ブラスバンド部・長唄三味線部・図書部は地域での活発な演奏・公演活動を展開 他のクラブも活発に活動し、成果をあげている ・部活動加入率 42% (△)
2 開かれた学校づくりの推進	(1) 学校情報の発信 ア 学校説明会・体験入学等の充実 イ 学校情報の積極的な発信	ア・学校説明会や体験入学の内容を充実させる ・中学校や学習塾への訪問を強化する。 イ・学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内、保護者向けメールマガジンなどを更新・活用し、学校情報の積極的な発信に努める。	ア・学校説明会 (校内開催) 年間3回以上 (H26・3回) ・中学校等訪問 100校以上 イ・ホームページ・メールマガジンの更新・発信 (週1回以上)	ア・予定されていた学校説明会 11月、1月、2月の3回に加え、夏休みにミニ説明会を4回実施し 137名が参加。11月体験入学 201名、満足度 95% (◎) ・中学校等訪問のべ 142校 (◎) イ・新学校紹介DVDも説明会参加者から高評価。 ・ホームページ更新 (月2~3回) (○) メールマガジンの発信 (△)
	(2) 地域等との交流・連携の推進 ア 地域交流・地域連携の推進 イ 国際交流の推進	ア・地域の学校や福祉施設等との交流、並びに地域行事への参加をひきつづき推進する。 ・地域の清掃活動を積極的に実施する。 イ・アメリカのブルーミントン市との交流など、国際交流を実施する。	ア・地域行事への参加 年間5回以上 ・地域清掃活動の実施 年間10回以上 イ・交流留学生の受け入れ	ア 北助松駅周辺清掃に約300名が参加。吹奏楽部、長唄三味線部による高齢者施設での演奏 卓球部による障がい者の卓球支援 (○) イ ブルーミントン市からの訪問受け入れ (○)
3 共生推進教室の充実	(1) 共生推進教室の充実 ア 共生推進教室の校内体制の整備 イ 「ともに学びともに育つ」教育の推進	ア・すべての教職員が共生推進校としての取組みに力をあわせ、すながわ高等支援学校 (本校) と連携しながら、共生推進委員会を中心に次年度の3学年がそろそろ完成年度に向けた校内体制の整備を図る。 イ・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援をおこない、すべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育をすすめる。	ア・共生推進委員会の定期的開催 イ・共生推進教室の支援内容についての学校協議会・学校教育自己診断における肯定的評価の維持	ア 共生推進委員会だけでなく、共生推進の生徒のケース会議を4回開催 (○) イ 自己診断「ともに学ぶ教育が進んでいる」生徒 44.1%、保護者 58.6% 教職員 89.1% (○) ・28年度選抜共生推進教室志願者 8名 (◎)